

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月23日

【評価実施概要】

事業所番号	0972300636		
法人名	医療法人藤沼医院		
事業所名	グループホームふじぬま		
所在地	栃木県下都賀郡大平町富田593-3 (電話) 0282-43-2466		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成22年2月5日	評価確定日	平成22年3月23日

【情報提供票より】(平成22年1月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	8 人	常勤6人(うち兼務1人), 非常勤2人, 常勤換算6.8人	
	7 人	常勤6人(うち兼務2人), 非常勤1人, 常勤換算5.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造
	2階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	・水道光熱費→20,000円 ・理美容代, おむつ代→実費	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成22年1月13日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	1 名		
年齢	平均 86.3 歳	最低	72 歳	最高	103 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤沼医院, クロス歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、町役場の北隣りにあり、私鉄駅近くに位置している。運営母体は医療法人であり、ホームに隣接して法人医院があり、院長(法人理事長)が毎日ホームに来所しており、入居者や職員がいつでも相談や助言を受けられる体制になっている。共用空間における照明器具は光量を調整できる様にしている他、日々の清掃や換気にも十分配慮しており、居心地の良い環境づくりに努めている。また、定期的に家族会を開催しており、入居者、家族、職員が一緒に過ごす時間を設けている他、毎月「ホーム便り」を作成して家族に配布し、入居者及び家族との関係を大切にしている。また、希望者には公文式学習を取り入れるなど、日々のケアに前向きに取り組んでいるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価結果については全職員で話し合いを行い、改善に努めており、入居者のリハビリの時間を午後にして法人病棟との連携を良くしたり、ケースの記録簿も項目を整理する等、業務の進め方を改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、たたき台を管理者が作り、全職員に数枚ずつ配布し、意見を募ったうえで、最終的に管理者とケアマネジャーがまとめあげている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は入居者、家族代表、民生委員、地域包括支援センター職員、法人常務理事、ホーム職員等がメンバーとなって2ヶ月に1度開催している。会議ではホームの運営状況や入居者への支援の取り組みや交替する職員の紹介等をしている他、家族や参加者からの意見や要望等も確認しており、それらをサービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームでは家族会を定期的に開催しており、入居者の状況を報告するとともに、家族から率直な意見や要望等を出してもらっている。また、運営推進会議の場でも、家族から意見や要望等を聞くようにしている他、玄関には意見箱も設置しており、家族が意見や要望等を表しやすい機会づくりに努めている。現状では、「ありがとう」と感謝の気持ちを述べられる方が多い。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会には加入していないが、町主催の福祉祭りに割り箸を利用して作った花瓶を展示したり、花市や法人の納涼祭、ホーム庭園の東屋等の場を利用して地域住民との交流が行われている。近隣の保育園児がホームに年2回程度来所し、童謡等を一緒に歌ったり、ダンスやハーモニカのボランティアの来所もあり、地域との交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で考えた「私たちは、心にゆとりを持ち、一人ひとりに優しく接し、幸福感を感じていただけるように介護します。」を独自の運営理念としてつくりあげている。	○	理念の中で入居者の地域生活に視点を置いた取り組みにも触れる等、地域との交流に向けた理念を追加していくことに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎週月曜日の朝礼時に、法人とグループホームの理念を理事長と共に唱和を行い共有化を図っており、理念の実践に向けて日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、町主催の福祉祭りに割り箸を利用して作った花瓶を展示したり、花市や法人の納涼祭、ホーム庭園の東屋等の場を利用して地域住民との交流が行われている。近隣の保育園児がホームに年2回程度来所し、童謡等と一緒に歌ったり、ダンスやハーモニカのボランティアの来所もあり、地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価結果については全職員で話し合いを行い、改善に努めており、入居者のリハビリの時間を午後にして法人病棟との連携を良くしたり、ケースの記録簿も項目を整理する等、業務の進め方を改善している。今回の自己評価は、たたき台を管理者が作り、全職員に数枚ずつ配布し、意見を募ったうえで、最終的に管理者とケアマネジャーがまとめあげている。		

グループホームふじぬま

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は入居者、家族代表、民生委員、地域包括支援センター職員、法人常務理事、ホーム職員等がメンバーとなって2ヶ月に1度開催している。会議ではホームの運営状況や入居者への支援の取り組み、交替する職員の紹介等をしている他、家族や参加者からの意見や要望等も確認しており、それらをサービスの向上に活かしている。	○	運営推進会議がより充実したものになるように、災害時の避難訓練等の議題には、自治会の役員や消防署員、地域の消防団等への参加を依頼する等、その時々々の議題に応じて参加者を考慮して開催することに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場とホームは近隣の位置関係にあることから、開所以来、町との連携は図られている。町の福祉祭りに参加したり、担当職員に様々な課題等について相談を行い、色々なアドバイスも受けている。町の担当課との合同の行事は現在のところ行われていない。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には月1回、入居者の顔写真入りの「ホーム便り」を作成し、それぞれの暮らしぶりや健康状態を記入したものを送付している。来所時や家族会の集まり等の場でも報告している他、入居者の状態に変化があった時はその都度、電話等でも報告をしている。金銭管理については、毎月の利用料請求書を送付する際に併せて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームでは家族会を定期的で開催しており、入居者の状況を報告するとともに、家族から率直な意見や要望等を出してもらっている。また、運営推進会議の場でも、家族から意見や要望等を聞くようにしている。他、玄関には意見箱も設置しており、家族が意見や要望等を表しやすい機会づくりに努めている。現状では、「ありがとう」と感謝の気持ちを述べられる方が多い。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員をA棟とB棟間で3ヶ月に1回、2人ずつのローテーションを行うことにより、すべての入居者と職員が馴染みの関係を作れるよう工夫をしている。異動の際に職員は、入居者に挨拶を行い、家族には広報誌や運営推進会議等で紹介をしている。離職者は少ない状況にある。		

グループホームふじぬま

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、原則としてすべての職員が交替で参加できるようにしている。研修会へ参加した時には、報告書を作成するとともにホームで行う勉強会等で報告をしている。法人全体の内部研修は、認知症や感染症対策、看取りや口腔ケア等の内容で月1回以上開催している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に加入しており、年2～3回の研修会に参加しており、他事業者と情報交換等の交流を行っている。他グループホームからの見学は受入れているが、ホーム側から他の事業所への訪問は実施していない。	○	近隣市町との合併があることから、近隣同業者間でのネットワーク作りについての取り組みを行い、他同業者と交流する機会を持ち、職員間の勉強会や相互訪問等の活動を通じてサービスの質を向上させていく取り組みに期待したい。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同法人医院の入院から入居に至ったケースが多い。入院している間に数時間ホームを見学してもらい、雰囲気や他の入居者や職員と顔なじみになってもらっている。その他の経緯で入居する場合にも、本人及び家族に事前にホームの見学に来てもらい、ホームでの暮らしぶりの説明を行う他、入居にあたっての要望や本人の情報の把握に努めている。また、それまで利用していた医療機関や他事業所、担当していたケアマネジャーとも十分連絡を取り合っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者のできることの把握に努め、コミュニケーションを図りながら、大根おろし、配膳、洗濯物たたみ等を行ってもらっている。また、職員も入居者から、干し柿の作り方や戦争や地震等の昔話、家事等を学ぶことも多く、共に支え合う姿勢を忘れないように心がけている。		

グループホームふじぬま

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居する際に本人や家族から希望や意向について確認を行い、書面に記入し希望に沿えるように努めている。意向の表出が困難な場合には、日々声かけやコミュニケーションを通して、表情や仕草から推察する等、本人本位に検討している。また、医師等の助言も受けて意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたっては、本人や家族の要望、医師の助言、前任のケアマネジャー及び関係事業所の意見等を踏まえ、担当者会議において検討している。さらに入居後に本人や家族の意向を再確認している。介護計画と、日々の記録が一体化されており、ケアに活かされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎のモニタリング時は、長谷川式・かなひろい・FIMでの評価を行い、見直しに活かしている。また、入居者の状態に大きな変化があった場合には、本人や家族の意向を聞き、医師の助言も得て、管理者と担当職員で新たな計画を随時作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接している同法人医院の機械浴を利用して入浴したり、リハビリや診察のための介助を行っている。また併設のデイケア施設で納涼祭を行っており、入居者と利用者の交流が図られている。また、月1回の有償ボランティアによる散髪も利用している。		

グループホームふじぬま

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の同意のもと、殆どの入居者が同法人の医療機関をかかりつけ医としており、月に数回の受診と24時間体制での支援が可能となっている他、院長が毎日来所し、入居者の健康状態を確認している。また、歯科医師の往診も行われている。その他の医療機関で受診する際には、申し送り書を持参してもらい、医師から診察結果を記入してもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応については、本人及び家族から入居の時に希望を聞き、実際に重度化した場合には医師や家族を交えて話し合いを行い、対応方針の共有を図っている。確認書も入居時と変化があった時に貰っている。なお、看取りについては、同法人の医療機関の協力を得ながら何度か経験をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、入居者の尊厳に配慮しており、「言葉使いチェック表」で注意を要する言葉等の使用に気をつけ、自己の振り返りにも活かしている。また、個人情報等の記録は2階の事務室に置いてあり、個人情報保護にも十分配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでは基本的な一日の流れはあるが、起床や就寝の時間は自由にしてもらっている。食事も一人ひとりの体調等を考慮し、早めに食べ始めることもある。希望者による「公文式学習」を毎日実施したり、近隣を散歩したり、庭の東屋で談笑する等、入居者各々がその人らしく過ごせるよう支援している。		

グループホームふじぬま

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は同法人医院の栄養士が担当し、職員がホームで調理している。大根おろし、さやとり、味付け、配膳、食器洗い等は入居者と職員が一緒に行っている。また、入居者の希望を取り入れられるように栄養士とも相談している。毎食、職員1名の検食と評価の記入がある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回ホーム内の浴室を利用し、5名程度の入居者が入浴している。重度化に伴い車椅子を利用している入居者は、家族の合意を得て同法人医院内の機械浴を利用して入浴をしている。入居者の希望により毎日入浴していない。入浴の順番を配慮している他、シャンプーや石鹸等も入居者の希望を取り入れている。	○	ホーム外の建物である同法人医院内の機械浴を利用することは、天候の状況等により健康面などの影響も考えられることから、法人内で十分検討の上、今後の取り組みを検討することに期待したい。また、入浴回数についても検討することを期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は食事の下ごしらえや食器拭き、洗濯物たたみ等、その日の状態に応じて役割を担ってもらっている。また、童謡の唱和、公文式学習及び庭園でのナス作りや、花の水やり等、職員は入居者一人ひとりの楽しみ事や気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事で計画したレストランでの夕食会や買い物等を年2回程度実施している。また、春には町内の運動公園に車に分乗して出かけている。天気の良い日にはホーム庭園の東屋のベンチで、地域の住民との談笑を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間（午後7時から翌朝6時まで）は施錠しているが、日中は鍵をかけないケアを実践している。玄関ホールにはセンサーが設置してあり、人の出入りがあるとチャイムがなり、外出を察知している。また、家族の協力を得て、落ち着いた入居者には毎日電話で話してもらい不安の解消につなげている。		

グループホームふじぬま

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年、ホーム独自の避難訓練と消防署の指導による避難訓練を一部の入居者も参加して、定期的の実施しているが、地域の住民の協力による訓練は実施していない。	○	火災や地震等の災害時における、入居者の避難等において事業所だけの対応の限界も見極め、今後は地域住民や消防団にも避難訓練等に参加・協力を依頼していく他、運営推進会議の場でも話し合う等、地域との防災における協力体制の構築に向けた取り組みに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人医院の医師や栄養士からの助言により、摂取量や栄養のバランスに気をつけており、月1回は体重測定をしている。飲み込み困難な入居者には、高カロリーゼリーを利用したり、とろみをつける工夫をしている他、ミキサー食やお粥を提供している入居者も多い。10時と15時のお茶の時間以外にも、入浴や散歩の後等、いつでも水分摂取ができるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の照明は光量が調整できるようにしている他、ホコリが出ないように毎日清掃したり、不快な臭いが出ないようにオムツの処理を工夫し、換気にも気を配っている。リビングの壁には入居者が作成した貼り絵を飾ったり、季節の花を生けてる等、居心地の良い雰囲気づくりをしており、入居者の多くはリビングで過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、本人や家族に自宅で本人が使い慣れた家具等を自由に持込んでもらうよう説明しており、箆箆やベット、仏壇、テレビの家具類や小物入れ等を持ち込んでいます。各々が家族の写真等を飾る等、本人が居心地よく過ごせるよう居室づくりがなされている。また、各室ドアが別々の色で区別されており、名前と写真が飾られている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。